

(5月30日) : 弱気心理が相場を押し下げ

国内株式は3営業日続けての下落、弱気心理が依然として市場の重荷になった。VN指数は2.2ポイント(0.23%)下落し969.34ポイント下落した。

出来高は10%、売買代金は18%ほど上昇し、1億5990万株と4兆ドンほどであった。しかしその内訳の多くは大型銘柄の相対取引であった。出来高にして5440万株、売買代金にして1.7兆ドンが相対取引で取引された。ベトジェット航空(VJC)は出来高が560万株、7056億ドンほど取引された。

VN30指数では18銘柄が上昇し、11銘柄が下落した。ビナミルク(VNM)は1%ほど下落し131,500ドンで取引を終え、ビンホームズ(VHM)も1.2%ほど下落し82,600ドンで取引を終えた。

上昇した銘柄では、サイゴンビールアルコール飲料総会社(SAB)は1.2%ほど上昇し263,500ドンで取引を終えた。テクコムバンクも0.9%ほど上昇し22,950ドンで取引を終え、売買代金は140万株であった。

FLCファロス建設は出来高トップで470万株が取引されたが、0.17%下落し29,950ドンで取引を終えた。ホアファットグループ(HPG)は出来高が410万株で1.5%安の32,000ドンで取引を終えた。

中型株の中では、ランドマークホールディングス(LMH)はストップ高の14,750ドンまで上昇し、6営業日続けての上昇となった。出来高は620,000株であった。

ハノイ取引所のHNX指数は横ばいの105.32ポイントで引けたが、出来高と売買代金は共に21%ほど下落し、それぞれ2110億株と2445億ドンになった。

4銘柄だけが出来高で100万株を超えた。サイゴンハノイ銀行は360万株で1.4%上昇し7200ドンで取引を終えた。

ペトロベトナムサービス(PVS)は2番目に取引された銘柄で、出来高は200万株ほどであった。0.8%ほど下落し23,700ドンで取引を終えた。1.1.6.8建設(MST)は3.8%上昇し3700ドンで取引を終えた。出来高は100万株以上だった。

BIDV 証券によると、支持材料が無いいため、投資家心理は依然として弱気で南北両取引所の取引は細まっているとのことだった。

さらに、投資家は世界的な不安定な状況に懸念を抱いている。ダウ平均株価は 2 月 11 日以来の安値に達し、SP500 指数も 3 か月間の安値に達している。

しかしながら、テクニカル的な反発は見られるかもしれない。VN 指数は 970-975 ポイントまで反発することが期待されると同社は予想した。

ディスクレイマー

このニュースは、投資の参考となる情報の提供を目的としたもので、投資勧誘を目的として作成したものではありません。投資に関する決定はご自身の判断でなされますようお願い申し上げます。このニュースは、信頼できると考えられる FiinPro という情報源に基づいて作成されていますが、その情報の正確性、完全性を保証するものではありません。このニュースは、Japan Securities Incorporated (JSI) から直接提供するという方法でのみ配布いたしております。このニュースのいかなる部分も一切の権利は JSI に帰属しており、電子的または機械的な方法を問わず、いかなる目的であれ、無断で複製または転送等を行わないようお願いいたします。